

国語〔問題〕

(100点・90分)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見たり、裏返したりしてはいけません。
2. この問題冊子は23ページあり、解答用紙は1枚(両面)です。
試験中に問題冊子・解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁などに気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 試験開始後、ただちに解答用紙の所定記入欄に、氏名・受験番号・誕生日をそれぞれ正しく記入し、さらに受験番号・誕生日をその下のマーク欄にマークしなさい。
4. 受験番号・誕生日が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
5. 解答は、解答用紙の解答欄に各設問で指示された方法で記入しなさい。
マーク方式は、例えば、

20

と表示のある問いに対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号20の解答欄の②にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
20	① ● ③ ④

6. 問題冊子の余白等は、下書きなどに適宜利用してよいが、各設問で指示された解答は、必ず解答用紙の解答欄に指示された方法で記入しなさい。
7. 試験終了後、提出は解答用紙のみとし、問題冊子は持ち帰りなさい。

第一問

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

近年、「子どもの貧困」がジモク^aを集めている。日本では、「大人の貧困」よりも「子どもの貧困」は相対的に注目度が高い。

「子どもの貧困」が「大人の貧困」よりも注目されるのはなぜか。

まず何よりも、「子どもの貧困」は自己責任の問題を回避できるという理由が考えられる。例えば、社会活動家で年越し派遣村の元・村長である湯浅誠とNPO法人フローレンス会長の駒崎弘樹^{こまき ひろき}との対談では、子どもの貧困という問題設定が自己責任論と切り離されている、あるいは乗り越えることができているとしている。湯浅は自らの著書でも「子どもの貧困は、大人の貧困に比べて、広い理解を得やすい」と述べている。この場合、当事者としての子どもは貧困の責任を問われることがなく、そのため自己責任を回避できているという意味である。

なるほど、と思うかもしれないが、このような発想こそが、日本の貧困観¹の貧困という現状を表現している。確かに、貧困問題をより多くの人に考えてもらおう「きっかけ」として、「子どもの貧困」を入口にするという「戦略」もないわけではない。しかし、それは戦略におぼれているといわざるを得ない。

そもそも、「子どもの貧困」という問題設定によって貧困と自己責任論を切り離れたところで、「大人の貧困」の自己責任論とはまったく対峙していない。それどころか、子どもの「非・自己責任」性が強調されることで、ネガティブな影響が生じてくる可能性すらある。

ここでいう、子どもの「非・自己責任」の本質とは、子どもの貧困は子どもに原因があるわけではなく、その環境に問題があるというものである。そして、この「環境」のなかに親をはじめとした大人がいる。

ここで問題なのは、第一に、大人の生活における自己責任が間接的に強調されていること、そして第二に、子どもの生活環境は親がすべて用意するべきものであるという価値規範を内在する「家族主義」から出発しているということである。

一つ目の「大人の自己責任」の間接的な強調とはどういうことか。これは、救済する側のお眼鏡にかなうような大人でなければ、貧困の救済の対象から排除されてしまうことだ。「救済に値する人間／救済に値しない人間」を選別するような論理が「子どもの貧困」という問題設定に内在している。救済に値するか否かは、貧困の当事者が働く意欲があつて、従順で、できる努力はすべてやり尽くしたにもかかわらず貧困であるかどうか、というところから判断されている。

一方で、子どもはそもそも働くことができないので、このような判断をする必要がない。大人の貧困に正面から対峙しない態度には、こうした判断を積極的に肯定しないまでも、消極的には追認することで、その判断の社会的影響力を強力にする機能が含まれている。つまり、「子どもの貧困」という戦略に安易に乗っかってしまうと、連帯の広がりや阻害してしまうという逆説的な展開が待っているということでもある。

二つ目は、より正確に言えば、「²家族主義」に内在する価値規範が³現代の貧困理論と矛盾してしまい、その理論的不整合性が反貧困の実践や困窮者支援の現場、政策形成の現場において少なからずネガティブな影響を及ぼしてしまうということである。

ここでいう「家族主義」とは、簡潔に言えば、個人の市民としての権利を基礎とするシティズンシップではなく、家族共同体のメンバーシップに重きを置き、それを基礎にした価値規範を重視するという考え方、あるいはその考え方に基づいた態度のことである。この「家族主義」にも女性差別が織り込まれ、規範化されている。差別は人間集団のあいだで優先・劣後関係を形成し、劣後された集団の権利の機能を限定し、権利よりも家族としての道徳・倫理・規範を強調する傾向がある。

例えば、子ども食堂や子どもの居場所づくりなどの地域発の取り組みそれ自体は、この「⁴家族主義」を相対化する一つの契機になっているが、その一方で、大人の貧困が自己責任であるということが強調されると、それに伴って子どもの貧困に対する親の責任（自己責任）も強調されることになってしまう。

⁵つまり、片方で「脱・家族主義」を実践しながら、もう片方で「家族主義」を助長している。「家族主義」に自覚的で

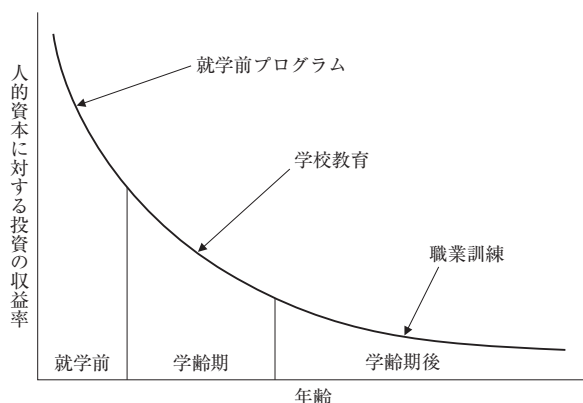


図1 人的資本に対する投資の収益率の概念図

(出典：Heckman 2006^{注1)})

ない実践は、それが内在している制度・政策にも回収されてしまう。こうした矛盾も視野に入れつつ、今後の展望を見通すための「きっかけ」として、二つのアプローチを紹介し、比較検討していきたい。

それは、「投資アプローチ」と「権利アプローチ」と呼ばれるものである。

「子どもの貧困」という問題設定は、子どもたちが貧困から脱し、貧困の連鎖を断ち切ることを目標として掲げている。しかし、その目標のためのアプローチは紹介した二つが混在しており、両者の概念的区別がなされず、非常にあいまいなままである。二つのアプローチを概念的にきちんと区別することによって、反貧困の実践や困窮者支援の現場での実践、政策要求の各々の場面で支持すべきものと拒否すべきものの区別の基準がより明確になるだろう。

ここでは、先に挙げた二つのアプローチの中で、特に「投資アプローチ」について説明していく。

「投資アプローチ」とは、子どもの貧困対策を将来に向けた「投資」と位置付ける考え方である。「投資」は、一般的にその投資に対するリターンを目的としている。お金を投資するのであるから、この場合のリターンも基本にお金である。そして投資対象として子どもが選別される。

なぜ大人でなく、子どもが投資の対象となるのか。それは、将来、その子どもがお金を生み出す確率が大人よりも相対的に高いからである。実際に、ノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマンによる教育投資に対するリターンとしての収益計算なども注目されてきた(図1)。

二〇一五年に提示された日本財団による「子どもの貧困社会的損失統計レポート」にもヘックマンの計算が持ち出され、子どもの貧困対策は「経済的・投資的な観点からも、子どもの貧困の解消は大きな社会的意義を有していると言える」と論じられている。^①

「なるほど、それは重要だ」と納得する読者もいるかもしれないが、一度立ち止まって、ここで何が起きるのかということを考えてほしい。というのも、この論理を受容してしまったときから、「選別」が生まれてしまうからである。

それは「投資に値する人間／投資に値しない人間」という選別への道を開く。ヘックマンの図をみれば一目瞭然であるが、子どもは **A** が高いため、「投資に値する人間」であると判断されるだろう。しかし、年齢を重ねたらどうだろうか。高齢者は投資に値しない。②

制度・政策は一度実施されたら、そのあとは効果を測定し、問題のある箇所に改善が施される。投資的な制度・政策の場合、さらに収益率を高くするための改善が要求されることになるだろう。③

そうすると、今度は、「子ども／高齢者」という選別だけではなく、「よりお金を稼いであつた子ども／そうでない子ども」という選別が生じることになる。よりお金を稼いであつた子どもとは、知能が高かつたり、勉強ができたたり、運動能力が高かつたりといった判断や期待が寄せられる子どもである。あるいは、「意欲がある」と判断される子どもかもしれない。④

では、何をもつて「意欲がある」と判断されるのか。それを誰が判断するのか。資本主義社会においては、基本的に、資本の要請に**b**適うかがその判断基準となっている。つまり、学校に行き、学習に積極的である場合には「意欲がある」と判断される。それは、学校に行き、規律訓練を受けることで、良質な労働力商品の保持者として養成されることが期待できるからという側面がある。これは資本主義に規定された意欲論である。⁶

一方、規律訓練を拒否した子どもは一部の例外を除いて「意欲がない」と判断される。「意欲」の資本主義的現実についての議論を回避し、資本主義的な意欲論に**c**ビンジョウしたとしても、この社会では生まれ育つた環境によって、その個人がもつ意欲や希望のあり方が左右されてしまうという現象についても考慮が必要である。

ここでは、高等教育への進学という具体的な事例から検討してみよう。

現在では、貧困家庭の子どもでも進学できるチャンスはかつてよりも充実したといわれている。それは貸与型奨学金制

度や給付型奨学金制度が充実したことと関係している。しかし、この奨学金制度は、大学の成績次第で打ち切られることもある。「勉強を頑張らないからだよ」と思う人もいるかもしれない。投資アプローチに依拠するならば、それも正当化される部分はあるだろう。ただし、お金持ちの子どもには成績を気にせず学業やサークルに打ち込んだり怠けたりする自由があり、そうでない子どもにはその自由が制限されているということにも注意を払っておくべきである。投資アプローチは、この「自由の不平等」を説明することも正当化することもできない。

「投資アプローチ」は、より洗練されていくなかで、次第に特定の「あるべき人間モデル」を作りあげていく。具体的には、「努力を怠^dしまない勤勉家」で、「合理的な選択ができる人間」である。

先ほども述べたように、「投資」の目的は経済的リターンである。この目的が制度・政策に埋め込まれ、実践に移され、さらにその実践がPDC Aサイクルを経て洗練されていく。この過程で、経済的リターンをより多く期待できる人間モデルがより強力に期待されるようになっていく。資本は、そうしたモデルに近い人物ほど高く評価するだろう。まさに「ホモ・エコノミクス（経済人）」がここで要請されるのであり、そうなることが子どもたちに期待されるようになる。

「投資アプローチ」に基づいて、貧困対策に込められた人間モデルになるべく子どもたちが頑張ると、結果として子どもを含むすべての人びとの競争が激化する。誰もが勤勉で合理的な判断を期待され、その道から外れることを恐れ、競争に乗らざるを得なくなる。

しかし、競争では誰もが勝者になれるわけではない。敗者も生まれる。その敗者はどうなるのだろうか。敗者に対しては、社会復帰や支援の名のもとに再び競争に投げ込もうとする力が働く。具体的には、学習支援（子ども）、就労支援（大人）などの支援を通して、自立に追い立てられ、競争もますます熾烈なものになっていく。

この「自立に追い立てられる」という表現は、自立支援について批判的に検討した先行研究『自立へ追い立てられる社会』（広瀬・桜井編 二〇二〇）から借りたものである。この著書には、「自立」が統治の手段となっている側面があることについて言及されている。また、「依存」については、これまでネガティブな評価がされてきたが、実は「共生」の根

拠となるものであることなどが具体的実践・事例と理論の両面から説明されている。

子どもたちの競争の激化について、日本は国連から何度も注意勧告を受けている。二〇二〇年に日本弁護士連合会・子どもの権利委員会が作成したパンフレット「国連から見た日本の子どもの権利状況」では、次のように記述されている。

競争的な学校環境の問題については、上述の、社会の競争的性質により発達を害されることがなく子ども時代を過ごせるよう求めたところを前提に、過度に競争的なシステムを含むストレスの多い学校環境から子どもを解放するためのソチの強化を求めました。どのように競争的かについては、第一回審査では「highly（大いに）」^e、第二回は「excessively（非常に）」、第三回はこれらに加えて「extremely（極めて）」と表現が強められていましたが、今回も「overly（過度に）」に競争的な学校システムが限度を超えて学校環境をストレスフルなものにしているとの認識が示されています。

もちろん、こうした子どもたちのストレスフルで競争的な環境というのは、子どもの貧困対策における「投資アプローチ」によって初めて形成されたわけではない。日本において、子どもの貧困対策が具体的に検討され始めたのは、二〇〇〇年代終盤～二〇一〇年代以降であるが、それ以前から、国連による日本への注意勧告は発出されてきた。つまり、日本の子どもたちは、もともと過度に競争的な環境に置かれてきたということである。

こうした経緯を踏まえて改めて強調したいのは、従来から熾烈な競争を強制する環境があったにもかかわらず、子どもの貧困対策を一つの契機として、さらにその競争を過熱させていくとする状況についてである。

競争し、強い産業人材になることに血道をあげざるを得ないような社会構造は、人間以外のもの、具体的には資本が主となっており、そこに人間が従属させられ振り回されているような疎外体系の極限である。

筆者は学習支援を含む子どもの貧困対策や取り組みのすべてを否定すべきだと主張したいのではない。教育や食、居場

所の保障は、「投資」のために行うのではなく、子どもたちの「権利」のために行う方が、貧困対策としては理論的な筋が通っているし、逆に「投資」のために行う場合、貧困（社会的排除）をより深刻化させる原因になってしまうというこ
7
とに警鐘を鳴らしたのである。

（志賀信夫『貧困とは何か』による）

注 1 Heckman, J. J. (2006) Skill Formation and the Economics of Investing in Disadvantaged Children. *Science*, vol 312, pp. 1900-1902.

注 2 P D C A サイクル……「Plan（計画）」「Do（実行）」「Check（評価）」「Action（改善）」というプロセスを繰り返すことで業務改善を目指す手法のこと。

問 1 — 線部 a ～ e の漢字は読みをひらがなで、カタカナは漢字に直して楷書で書きなさい。解答番号は a 1・

b 2・c 3・d 4・e 5。

問二 ―線部1「貧困観の貧困という現状」とあるが、なぜこのような現状が生じていると筆者は考えているか。説明

として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 6。

① 全国的に貧困化が進んでいるが、救済の対象から外れてしまったために貧困の程度が深刻な大人が増えてきているから。

② 貧困問題に向き合うための手法は複数あるものの、それらの概念的区別がなされないまま現場での実践に使われてきているから。

③ 競争を強いる学校環境の問題が従来から指摘されていたにもかかわらず、子どもの貧困対策を一つの契機として、さらにその競争を過熱させていこうとしているから。

④ 貧困対策について、経済的、投資的な意義という観点から効果を検討するという議論を正面からしてきていないから。

問三 ―線部2「『家族主義』」に内在する価値規範」とあるが、どのような規範か。この規範の内容を具体的に表して

いる最も適切な箇所を本文中から三十五字以内で抜き出し、最初と最後の五字を書きなさい。句読点や記号も一字に数えます。解答番号は 7。

問四 ―線部3「現代の貧困理論」とあるが、どのような理論か。次の空欄 ア に入れるのに最も適切な言葉を本

文中から十二字以内で抜き出さない。解答番号は 8。

ア

を重視する理論

問五

——線部4『家族主義』を相対化する」とはどういうことか。説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 9。

① 家族集団の倫理や規範は伝統的価値のあるものであり、こうした価値観を守っていくべきという考え方を改めて認識すること。

② 家族集団の倫理や規範を重視するべきという考え方によってもたらされる肯定的側面や否定的側面について熟考し、整理すること。

③ 家族集団の倫理や規範を唯一無二のものとして信じるのではなく、他の考え方もあることに気づき、様々な考え方の中での位置づけを理解すること。

④ 家族集団の倫理や規範を重視するべきという考え方や態度を少しずつ弱めていくこと。

問六

——線部5「片方で『脱・家族主義』を実践しながら、もう片方で『家族主義』を助長している」とあるが、どう
いうことか。説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 10。

① 子ども食堂などの取り組みは、子どもの食の責任を親にだけ求めるのではない点で家族主義に囚_{とら}われていない
と言えるが、一方で、親に代わる存在が子どもの面倒をみているという点で、本来は親がするべきであるという
メッセージを人々に送ってしまうことで「家族主義」を強めているということ。

② 子ども食堂などの取り組みは、子どもの面倒を十分にみることができない親から子どもを引き離す役割を果た
すという意味で家族主義の力を弱める働きをする一方で、最近では親も子ども食堂に受け入れることで家族の凝
集性が高まるなど「家族主義」を強める働きもしているということ。

③ 子ども食堂などの取り組みは、子どもを主な救済対象とすることで、結果的に大人と子ども、それぞれの集団
の間に優先・劣後関係をつくり出しており、個人としての権利よりも家族としての道徳や規範を重視する「家族
主義」を強めているということ。

④ 子ども食堂などの取り組みは、家庭以外に食や居場所を提供する場をつくる一方で、子どもに特化した対策で
あるために大人の自己責任や親としての責任に意識を向けさせることになり、本来は親が子どもにより生活環境
を提供すべきであるという「家族主義」を強めているということ。

問七

空欄

A

に入れるのに最も適切な言葉を、本文中から三字以上四字以内で抜き出しなさい。解答番号は 11。

問八 次の文は本文中のどこに入るのが最も適切か。本文中の①～④の記号で答えなさい。解答番号は 12。

つまり、貧困対策そのものが人を選別していくのである。

問九 —線部6「資本主義に規定された意欲論」とあるが、どういうことか。説明として最も適切なものを、次の①

～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 13。

① 資本主義社会では、将来的に良質な労働力を提供することでお金を産み出せるという意味から、学習に積極的な人は投資に値する人であり、「意欲がある」と判断されるということ。

② 資本主義社会では自由意志や自己決定に価値が置かれているため、学校に行きたい、学びたいという意志を持つ子どもは「意欲がある」と判断され、それ自体に高い価値が見出されるということ。

③ 資本主義社会では意欲の有無の判断に一部の資本家の意向が反映されるという意味で、「意欲がある」かどうかの判断基準は資本主義の理念に影響されているということ。

④ 資本主義社会では、子どもが学業やサークルにどの程度打ち込めるかといった自由度は家庭の経済状況によって異なっており、個人がどの程度「意欲があるか」や持っている意欲を外に見える形で示すことができるかは生まれ育った環境に影響されているということ。

問十 —線部7「警鐘を鳴らしたい」とあるが、「警鐘を鳴らす」と同義の言葉を漢字四字で答えなさい。解答番号は

14。

問十一 本文の内容に最も合致しているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 15。

① 資本主義社会は、人々が競争し、強い産業人材になることに没頭するような社会構造となっており、適切な貧困対策を行うことはかなり難しく、この問題の解決については諦念せざるを得ない。

② 「子どもの貧困の場合は子どもに原因があるわけではないため救済の対象となる」という考え方を受け入れることは、本人に原因がある大人の場合は救済対象とならないことを暗に認めることになり、結果的に貧困問題の解決に負の影響を及ぼす。

③ 子どもの貧困への対策が実施されるようになってから、学校において子どもたちの熾烈な競争が見られるようになったため、さらなる競争の過熱を避けるためにも投資のための貧困対策を行うべきではない。

④ 本来は大人の貧困であれ、子どもの貧困であれ、連帯して解決にあたることが望ましいが、救済に値する人間と値しない人間を選別する考え方を受け入れることにより、貧困という共通の問題の解消に向けて仲間意識をもつて取り組むことが容易になる。

第二問

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

インターネットが社会を変えたと言われる。いまやインターネットは社会システムに深く根を下ろし、ある意味で社会と一体になっている。インフラとして社会に溶け込んだインターネットは社会と不可分である。

しかし、社会のほうが先に変わって、それに適応する技術が求められたり選ばれたりして技術開発が行われ、実装が進み、社会の変革を加速させることのほうが多い。高度になり、強大に育った技術が、社会へフィードバックを返し、それが社会の変容を加速、大規模化させることはある。しかし、A。

何も下地や種火がない場所に、インターネットがいきなり出現しても、利用者がテレビのほうがよいと考えれば、それでおしまいである。インターネットの例を見ても明らかのように、社会と技術は強固な関係、一種の共犯関係を結ぶが、社会の変容が技術に先立つ点は強調しておきたいポイントである。

インターネットが十分に普及して、社会のすみずみにまで行き渡るには、前提として、個人主義の確立や価値観の多様化が進んでいる必要がある。インターネットがこれらを強化することはあるが、インターネットがこれらを生み出すわけではない。

B、インターネットや、インターネット上で提供されるサービスやアプリケーションの意味を解釈し、理解を深めるには、インターネットの登場と普及を許した社会と、インターネットと社会とのかかわりについて、知っておく必要がある。

日本の戦後は「大きな物語」を軸とした社会が構成された。ここで言う大きな物語とは、たとえば伝統やイデオロギ（注）ーといったものだ。みんながなんとなく意識し、信じ、依拠していて、その人の人生に影響を与える価値観がある程度一つにまとまっているのである。C、この価値観はそれを備えた本人によい影響を与えることもあるし、悪い影響を与えることもある。従順に従うことも、反発することもあるだろう。しかし、意識しているという点において、皆に等しく

影響を与えていることは間違いない。大きな物語の影響力は、戦中から戦後にかけてピークに至り、その後はゆっくりと解体していった。しかしその名残は、今もここで見ることができる。

私は一九七〇年代に生まれ、一九八〇年代に思春期を過ごしたが、この時代の学校生活でも、他人の役に立つ人生を送らなければならない、よい会社に入って、一生勤め上げなければならない、男の子は男の子らしく積極的に快活であらねばならない、女の子は女の子らしく受容的で優しくあらねばならない、といった価値観が教員や家庭や地域社会によって幾重にも刷り込まれた。彼らにとっては、刷り込むという意識すら存在しなかったろう。それが当たり前で、善なることであり、みんなが疑いもなく信じており、次世代に規範として受け継ぐのは自然なことだったのである。もちろん、すべての児童・生徒がこの考え方に従っていたわけではない。

現時点で「先生」といえば教育サービス業の従事者であって、それ以上の意味はない。

D

、大きな物語の時代に

は、大きな物語を象徴する存在として社会のイチヨク^aを担っていた。その職務上、聖職者などと呼ばれることもあり、社会の価値規範を構築する側として、大きな存在感を持っていたのである。児童・生徒やその保護者は、教員の権威に従うのが一般的だったが、反発する生徒もいた。でも、それで大きな物語が機能不全を起こしたかと言えばそうではなく、むしろ逆であった。教員への反発は、大きな物語を認めているからこそ、生じたのである。社会の正義や価値規範を背負って立っている先生に刃向かうのは、格好が良かったり、少なくとも自分の勇気をアピールするのに都合の場であったのだ。先生に刃向かって手を上げるような生徒は、実は大きな物語の強化に加担しており、学校という場の権威を高める共犯¹として機能していたと考えてよい。

いまの学校で、本気で先生に反発し、暴力事件などを起こす生徒が現れたとしたら、その子はとても純粹である。²大きな物語が縮小し、力を失うのにしたが、先生が身にまとっていた権威もまた失われてしまつて、生徒にとってはきわめて身近で凡庸な存在になっている。先にも述べたように、先生は教育サービス業の末端の（ときには非正規の）従業員に過ぎず、生徒の価値観の中では小売店の販売員と等価である。コンビニエンスストアの従業員を土下座させた事件がネッ

トのコミュニティで炎上したが、むしろ自分よりも立場が弱いかもしれない人を追いついたとして、誰の賞賛も得られないのは当然のことである。

今後学校の中で、暴力事件は起こるだろう。二〇世紀に多発した校内暴力と表面的には同じように見えるかもしれない。しかし、それは先生という権威に対する反発ではなく、自分の思い通りのサービスを提供しない従業員に対するクレームと等価の行動であると認識するべきである。

こうした社会構造の変化は、技術や文化に様々な影響を与える。³ 大きな物語が機能している社会では、みんなが認識する（多くは信じ、少数者が反発する）価値観が存在するため、同じコンテンツを大量の受信者に配信できる技術が好かれ、選ばれる。それは、テレビであり、ラジオであり、新聞であり、雑誌である。⁴ 文化も社会構造の影響を受ける。特にサブカルチャーは影響を受けやすい。そこで取り上げられるテーマやシナリオラインは如実に社会変容を反映する。

スクールカーストという身も蓋もない表現を考えてみよう。表面上糊塗された綺麗事やお為こかしを引つがしてしまえば、いつの時代もカースト的な上下関係が地域や職場や学校にあり、また今後も存在し続けるだろう。

カーストの上位に位置する人はハイカルチャーやメインカルチャーを好み、カーストの下位に位置する人はサブカルチャーを好む傾向は根強い。そもそもマイノリティの文化・価値観・願望を抽出し、表現したものがサブカルチャーなのだからこれは当然のことである。どんな商品も消費者のニーズには敏感に反応してそれに適応する。そしてその商品が流行を生み、表層を真似した商品が再帰的に作られていく。この傾向はどんどん強化されていくのだ。

社会にひずみが生じるとき、それが最初に、かつ顕著に現れるのはその社会の下位層に位置づけられている人や文化においてである。サブカルチャーを観察することで、社会の変化を読み取れることがあるのは、そのためだ。もちろん、ハイカルチャーやメインカルチャーも社会の影響を受ける。しかし、そのカルチャー自体もそれを好む人も、社会で評価され、強い力と立場を持っているため、サブカルチャーほどに社会の変容が描き出されるわけではない。社会構造が変わっても、才能のある者、資金のある者、特権的地位にある者は、その豊富なりソースゆえに変化の波を受けるまでのユウヨ^c

時間を取ることができ、かつその変化をいなし、時には変化を止めるように働きかけることができる。

しかし、弱者はそうではない。主体的に社会の変化を主導することができず、何らかの内的、外的リソースを行使して変化を緩和することもできないのであれば、自らの肉体と精神をもって変化の波を受け止めるしかないのだ。「E」は弱者へ向けて与えられるキーワードである。だからこそ、弱者は変化に敏感であり、その弱者が主に消費するサブカルチャーも、社会の変化に敏感である。

たとえば、大きな物語の時代の影響を受けている代表的なコンテンツとして、ウルトラマンをあげることができる。ウルトラマンは、違う星からやってきて、正義を執行する。そこには、何の屈託も迷いもない。これは、単純なコンテンツに見えて、実はいくつかの条件が重なっていないと成立しない筋立てである。少なくとも、みんなが信じる正義なるものが、一つの像を結んでいなければ、一部の人だけしか楽しめないコンテンツになる。

ウルトラマンは、いまから振り返ると、やっかいなコンテンツである。主人公が対峙するのは、自分とは相容れない利害関係を持つ宇宙人や怪獣で、それを誅伐する正義の執行に何のためらいも持たずにすむ。たまに変化球が飛んできて、悪の側の活動が主として描かれるコンテンツが現れることがあっても、社会が要請するロールモデル善、社会が排除するロールモデル悪の構図は堅固に機能していた。マイノリティへの配慮や、ダイバシティの必要性をメッセージとして作品に織り込んでいる箇所はたくさんあるのだが、素直に鑑賞するならば、これは制作された時代の正義を満艦飾に肯定する作品に他ならない。

同種の作品としては、水戸黄門^{みとこうもん}などを挙げることができるだろう。水戸黄門も弱い者の味方だ。最後には助けてくれる。しかし、黄門様が社会の枠組みを否定することはない。どんなに悪辣^dな代官がいても、統治機構^eがハタンしていても、決して「幕藩体制が悪いから、倒幕しよう」とは言わない。単一の正義に基づき、その枠の中に人々を回帰させるよう、修正を施すのみである。正義すら定かではなく、「人を殺して何が悪いのですか？」と問いかけることさえ許容されるままの考え方に慣れてしまうと、窮屈な世界観、倫理観である。

しかしこの窮屈さは、一方でそこで生活する人や、それを消費する人に安心を与えることにもなる。単一の価値観や、否定することもできずに人に押し付けられた価値観は、それに自分を馴染ませることができれば、その後の人生を楽に生きるための有効な手段になる。これは、正義に反発する立場の人々にとっても同じである。正義に忌避感を示し、その正義に反対する人にとっても、「正義」という軸があることは生きるうえでの自分の立ち位置を明確にしやすい。端的に言って、居場所を作れるのである。「絶対的なものが存在し、それに反対する」のは、シンプルでわかりやすい居場所の確保の方法である。使いこなすための難易度が低いツールでもある。大きな物語が影響力を持っていた時代は、窮屈で息苦しくはあるが、安心感を得やすい、自分の居場所を見つけやすい社会であったとまとめることができる。

(岡嶋裕史『インターネットというリアル』による)

注1 イデオロギー……思想傾向、政治や社会に対する考え方。

注2 サブカルチャー……正統的・支配的な文化ではなく、その社会内で価値基準を異にする一部の集団を担い手とする文化。下位文化。

問一 | 線部 a ~ e の漢字は読みをひらがなで、カタカナは漢字に直して楷書で書きなさい。解答番号は a

b 17 ・ c 18 ・ d 19 ・ e 20

16

問二

空欄

A

号は 21。

に入れるのに最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番

- ① 技術的進化や新規技術の開発は、社会の変化と不可分のものである
- ② 高度でなく強大でない技術の開発や進化であっても、社会を変える可能性はある
- ③ 高度でなく強大でない技術の開発や進化では、社会を変えることは困難である
- ④ 単なる技術的進化や新規技術の開発が社会を変えるわけではない

問三

空欄

B

C

D

に入る語の最も適切な組み合わせを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解

答番号は 22。

- ① B そのため | C ただし | D たとえば
- ② B だから | C もちろん | D たとえば
- ③ B したがって | C もちろん | D しかし
- ④ B ところで | C ただし | D しかし

問四 — 線部1「共犯として機能していた」とあるが、この説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一

つ選びなさい。 解答番号は 23。

① 社会の価値規範を構築する側の者が、圧倒的な力を持って、それに反発する側の者を押さえつけていたということ。

② 社会の価値規範に反発する側の者が、その規範を認めないことで、その価値規範がかえって強化されたということ。

③ 社会の価値規範に反発する側の者が、結果としてその社会の価値規範の強化を助けたということ。

④ 社会の価値規範に反発する側の者が、結果としてその社会の価値規範を弱める働きをしたということ。

問五 — 線部2「その子はとても純粋である」とあるが、その理由として最も適切なものを、次の①～④のうちから

一つ選びなさい。 解答番号は 24。

① いまだに先生を権威の象徴とみなし、反発しているから。

② 権威が失墜してしまった先生に対して、抗議の姿勢を示そうとしているから。

③ 自分の思い通りのサービスを受けられないことにいらだっているから。

④ 社会の多くの者が信じる価値観に従って先生に反発することで、純粋に抗議をしようとしているから。

問六

——線部3「大きな物語が機能している社会」とあるが、その例として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **25**。

- ① 多くの者がそれぞれの価値観に従っている社会。
- ② 多くの者が学校の先生の権威に従っている社会。
- ③ 個人的で、多様な情報発信が求められている社会。
- ④ インターネットが普及した社会。

問七

——線部4「文化も社会構造の影響を受ける」とあるが、その例として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **26**。

- ① 社会の下位層に位置付けられている人はサブカルチャーを好む傾向が強いが、サブカルチャー自体もそれを好む人も、強い力と立場を持っており、社会構造が変わっても、その変化をいなしたり、止めるように働きかけたりする必要はない。
- ② 社会の上位層に位置付けられている人はハイカルチャーやメインカルチャーを好む傾向が強いが、それらのカルチャー自体もそれを好む人も、社会で評価されているために、社会構造が変わっても、その変化の影響を受けることはない。
- ③ サブカルチャーを好む傾向が強い社会の下位層に位置付けられている人は、社会構造が変わった場合、その変化に敏感に反応し、その変化を受け止め、ある程度、変化をいなしたり、変化を止めるように働きかけたりすることができる。
- ④ サブカルチャーを好む傾向が強い社会の下位層に位置付けられている人は、社会構造が変わった場合、その変化に敏感に反応するが、その変化をいなしたり、変化を止めるように働きかけたりすることはできない。

問八 空欄

E

に入る語句として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 27。

- ① 自分を変えない
- ② 自分を変える
- ③ 他人を変えない
- ④ 他人を変える

問九

——線部5「大きな物語の時代の影響を受けている代表的なコンテンツ」とあるが、その特徴の説明として最も適

切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 28。

- ① その時代の単一の正義に基づき作られている。
- ② その時代のいくつかの正義に基づき作られている。
- ③ 社会の変化を主導できない弱者の視点で作られている。
- ④ 主人公が対峙する者は主人公とは対等な関係にない。

問十

——線部6「自分の居場所を見つけやすい社会であった」とあるが、これは大きな物語が影響力を持っていた時代

のことである。では、大きな物語が影響力を持たなくなった時代ではどのような社会になったと筆者は考えているか。次の空欄 A に入れるのに適切な語句を、本文中から八字以上十字以内で抜き出しなさい。なお、空欄 A に入れるのに適切な語句は、本文中に複数ある。そのいずれか一つを抜き出しなさい。句読点や記号も一字に数えます。

解答番号は 29。

29

A

ない社会

問十一 本文の内容に最も合致しているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 30。

① インターネットの台頭が社会の変革を促し、個人主義の確立と価値観の多様化を生み出し、それがサブカルチャーの発展に繋がった。しかし、そのために、よって立つ価値観を見つけづらい社会となった。

② 大きな物語が影響力を持っていた時代では、みんなが意識し、信じ、依拠する価値観がまとまっていた。多くの者がこれに従ったが、その価値観に忌避感を示す者もいて、そうした者たちは、社会から排除されていた。

③ 社会においてある程度一つにまとまった価値観を多くの者が信じていた世界では、自分の立ち位置を見つけやすかった。しかし、インターネットの台頭により、個人主義や価値観の多様化が加速され、自分の立ち位置が見つけづらくなった。

④ 社会においてある程度一つにまとまった価値観を多くの者が信じていた世界では、その価値観に馴染むにせよ、反発するにせよ、自分の立ち位置を見つけやすかった。今日のインターネットの台頭により個人主義が確立し、価値観が多様化した社会においては、極端な価値観を持つことも許容されるようになった。